

東静岡地区景観形成基本方針（景観ガイドライン）案の概要

（交通基盤部）

1 景観形成基本方針（景観ガイドライン）の役割

静岡県の県都における「文化とスポーツの殿堂」となる東静岡地区の、より良い景観形成を目指し、県、市及び有識者（寒竹教授、内藤名誉教授、東教授）からなる都市景観技術会議で議論を重ねた結果、「東静岡地区景観形成基本方針（景観ガイドライン）案」を取りまとめた。

これに基づき、さらに以下の取組を進めていくこととしている。

- ・ 先導的役割を担う拠点施設（県・市有地）における施設計画に反映する。
- ・ 地域住民や事業者及び行政内関係課と協議して合意形成を図る。
（法令に基づく景観計画重点地区や広告景観重点地区等の指定を目指す。）

2 現状と課題

立地の特性	景観の構造
<ul style="list-style-type: none"> ○商業や行政の中心である静岡都心地区と美術館や図書館等を有する文教エリアである草薙地区の中間に立地 ○周辺には大学が点在し、若い活力が集まる潜在的なポテンシャルを有する ○谷津山や日本平の緑豊かな風致地区を望む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆとりのある幅員の都市計画道路が東静岡らしい景観の軸となり得る ○谷津山や日本平の緑、富士山の遠景を意識することで東静岡らしい景観形成が可能 ○静岡都心地区と草薙地区との連携により、交流と賑わいの創出が期待できる

主な課題

<p>地域の自然や土地利用等の現状と市総合計画等を勘案すると、次の課題が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○街路や核施設等の公共空間のスケールを活かしきれていない ○未利用地が多く存在し、土地利用が進んでおらず、賑わいに欠ける ○地区内の落ち着いた夜間景観と調和しない派手な照明の建築物や広告物が目立つ

3 東静岡らしい景観と目指すイメージ

東静岡らしさのキーワード	目指す景観のイメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・文化力の拠点、グランシップ等の文化施設 ・旧東海道、護国神社等の歴史 ・世界遺産富士山の景観 ・国際色豊かな学生が集う文化の中心拠点 ・子育て世代も集う公園、広場 ・国道1号、東海道本線等の交通アクセスの活用 ・静岡と草薙の中間に位置する人々が集う副都心 ・文化とスポーツの両面から元気な人々が集う拠点 ・広々とした公共空間を活用したアクティビティ 	<p>「美しく風格あるまちづくり」として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化が薫るまち ○交流のまち ○賑わいのまち <p>の形成をイメージし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化が薫り歩きたくなるまちなみ ○人々が集う交流の空間 ○学生たちで賑わうまち <p>の実現を目指す。</p>

4 取組方針

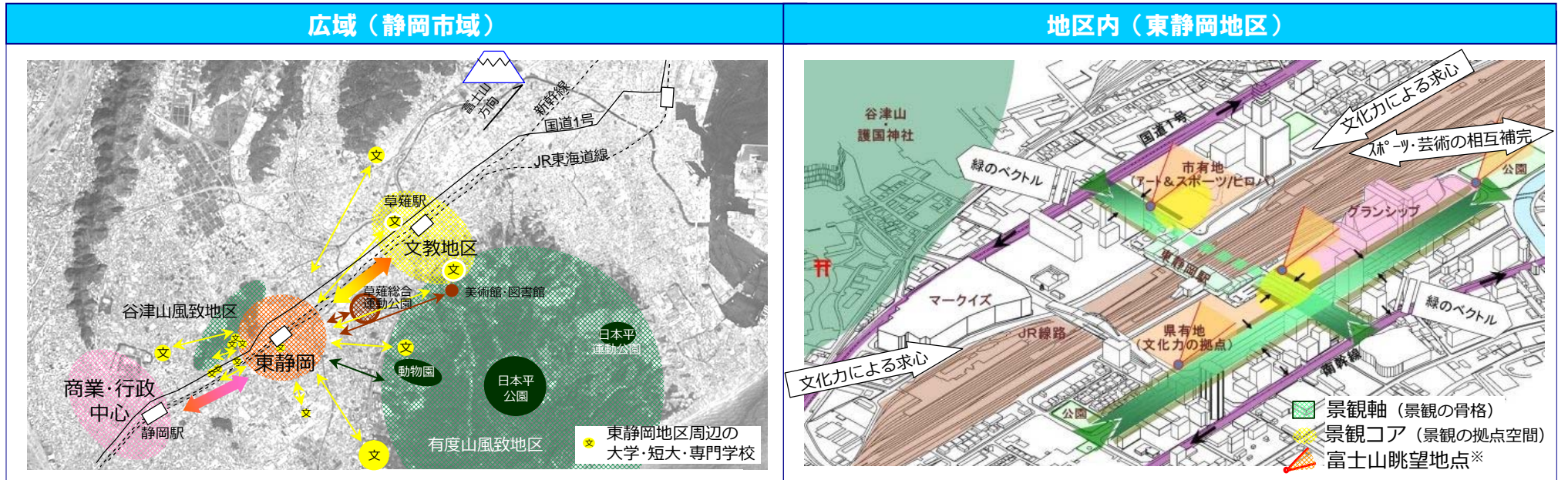
インフラ	土地利用	景観誘導
<ul style="list-style-type: none"> ○快適な居場所をつくる ○賑わいや交流をもたらす公共施設をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○沿道をまちの接点として活かす ○商業系の土地利用を誘導する 	<ul style="list-style-type: none"> ○調和したまちなみをつくる ○東静岡らしい視点場を整備する

東静岡地区景観形成基本方針（景観ガイドライン）案 概要

「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい美しく風格あるまちづくり

～富士望み 緑の回廊 誘える 潤い賑わう 東静岡～

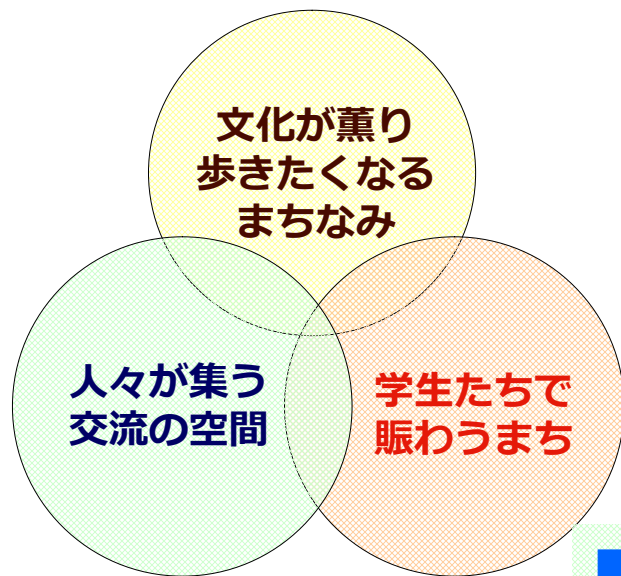
立地特性・景観構造



※建築等で眺望できなくなる場合は敷地内に代替地点確保

景観形成の目標の5本柱とイメージ

① 富士山や日本平など眺望景観の確保	② 美しいまち並み形成（景観軸、景観コアの形成）	③ 緑を感じる空間形成	④ 賑わいと潤い（まち空間のひだ）の創出	⑤ 拠点周辺地区の一体的空間形成
--------------------	--------------------------	-------------	----------------------	------------------



文化が薫るまち

- 文化力の拠点、グランシップ等の文化施設
- 旧東海道、護国神社等の歴史
- 世界遺産富士山の景観



交流のまち

- 国際色豊かな学生等が集う文化の中心拠点
- 子育て世代も集う公園、広場
- 国道1号、東海道本線等の交通アクセスの活用



賑わいのまち

- 静岡と草薙の間に位置する人々が集う副都心
- 文化とスポーツの両面から元気な人々が集う拠点
- 広々とした公共空間を活用したレクリエーションやアクティビティ

取組方針

インフラ	土地利用	景観誘導
<p>快適な居場所をつくる</p> <p>・まちの顔となる緑陰の広場</p>	<p>沿道をまちと人の接点として活かす</p> <p>・開放的な店構えの店舗正面意匠</p>	<p>調和したまちなみをつくる</p> <p>・統一感のある建築物等の色彩や形態</p>
<p>賑わいや交流をもたらす公共施設をつくる</p> <p>・壁面後退部の歩道と一体的な設え</p>	<p>商業系の土地利用を誘導する</p> <p>・カフェ等による歩道の活用</p>	<p>東静岡らしい視点を整備する</p> <p>・富士山を望むことのできる眺望地点 ※グランシップ東側公園</p>